

晴れた日には出かけよう！ ～まちのミリョクを再発見!!～

11

かざまつりししまい
風祭獅子舞



玉の内の伝統の獅子舞。一味違う風流獅子を8月のお祭りでご覧ください。

玉の内の風祭獅子舞は『玉の内の獅子舞』として平成2年(1990)に町の無形民俗文化財(民俗芸能)に指定されました。毎年8月に氏神である三嶋神社へ奉納されています。この獅子舞は雨乞獅子とも呼ばれ、かつては雨乞いなどにも奉納されていたそうです。雨乞いの効能なのか、8月のお祭りは雨に降られることが多いといわれています。

獅子舞に関して記された古文書の類は、残念ながら明治15年(1882)の大久野焼けで焼失してしまい現存しません。しかし、幸いなことに獅子頭が3組残っていて、内2組に銘が見え、1組には文化7年(1810)と判断できる墨書が確認できます。また、装束入箱の蓋裏書に弘化3年(1846)、文久2年(1862)の年号があり、この頃には既に舞われていたようです。現在使われている獅子頭は新調したもので、当時のものは保存会によって大切に保管されています。



お囃子の音色にあわせ躍動する三頭獅子

三嶋神社のお祭りは、毎年8月の第2土曜日行われます。例年、午後1時頃に玉の内会館を出発し下庭場のある三嶋神社へ向かいます。そこで神事を行った後、午後2時頃から二庭が演じられます。続いて上庭場へと移動し、午後4時頃から二庭が演じられます。中庭場の多摩の内会館へ移動した一行は、夕食のため休憩した後、午後7時頃から10時過ぎまでかけて最終の三庭が演じられます。



清楚な装束で色を飾る花笠

この獅子舞は、お正月に良く見る獅子舞とは異なり、1人で1頭の獅子を演じます。演者は頭に獅子頭を被りおなかに太鼓を括り付け、女獅子の「雌獅子」、棒角の男獅子の「オオダイ」、捻れ角の男獅子「キリ」と呼ぶ3頭の獅子で演じられます。獅子の他にも花笠や道化役の天狗などが登場します。この様な系統の獅子舞を一人立三頭獅子舞や

風流獅子舞などと言い、関東地方を中心に東日本で主に伝承されているようです。玉の内の獅子舞は神立、神切、布団張、花掛、七道、太刀掛、竿掛の七庭があり、三嶋神社のお祭りでは舞を演じるための庭場と呼ばれる場所が上庭場、中庭場、下庭場と3箇所あります。上庭場が秋川街道側から玉の内地区に入ってすぐの個人の屋敷地、中庭場がかつて獅子宿であった保寿院跡の玉の内会館、下庭場が三嶋神社境内です。お祭りの日、獅子宿の会館を出発した獅子舞一行は、万燈を先導に地区内を練り歩き、3つの庭場を巡りながら7つの舞を奉納していくのです。玉の内の獅子舞は派手なものではありませんが、その舞はとても躍動的であり、時に勇壮に、時に滑稽に、人を惹きつける魅力があります。

アクセス



三嶋神社へは「落合」バス停下車、徒歩3分です。落合橋を渡って右手すぐになります。

目の出WALK (観光マップ)【J-7】

